



伊藤まさひろ県議会レポート

発行/自由民主党千葉県議会議員会

〒260-0855 千葉市中央区市場町2番13号 電話 043(227)7411

印旛沼 恵みの沼の再生願い

積極的に議会活動展開

佐倉で生まれ育った伊藤昌弘県議は、古来から流域住民にたくさん恵みをもたらしてきた印旛沼をこよなく愛し、水質浄化や環境整備に一生懸命、取り組んでいます。県議会本会議や予算委員会では、質問に立つたびに積極的に印旛沼の浄化・環境整備を取り上げて県当局に質問し、要望をしてきました。印旛沼再生への伊藤議員の願いは大きなうねりとなり、今や県民の大きな願いにもなっています。これまでの伊藤議員の県議会一般質問のうちから印旛沼にかかわる質問と県当局の答弁を抜粋し、紹介します。



印旛沼の再生について質問する伊藤昌弘県議

流域の環境と生活映す鏡

伊藤議員 昭和27年に手賀沼とともに県立印旛手賀自然公園に指定された風光明媚な湖沼である印旛沼は上水道、工業用水、農業用水の水源として、さらに内水面漁場として利用され、地元佐倉市をはじめ、多くの県民にとって、かけがいのない恵みの沼であり、貴重な財産だ。

しかしながら、今日の印旛沼は都市化や経済社会活動などの影響に伴い、水質汚濁が進行して環境基準を大幅に上回り、水道水源としては全国ワースト1位になっている。

印旛沼は、地域の環境と我われの生活を写す鏡であり、一日も早い浄化を目指さなければならない。

(平成19年6月県議会一般質問から)

また、これまでカミツキガメの行動パターンについて不明な点が多かったことから、発信器を用いた行動調査を実施し、効果的な駆除方法を検討するた

■平成26年12月県議会
伊藤議員 道路、歩道などにたまった汚れが初期降雨時に雨水と一緒に側溝に流れ、河川から沼に入り水を汚してしまうファーストフラッシュ汚濁対策についてうかがう。

伊藤まさひろ・PROFILE

- 略 歴 ■
- 昭和30年 佐倉市に生まれる
- 昭和53年 日本大学法学部卒業
- 平成7年 佐倉市議会議員当選
- 平成11年 佐倉市議会議員再選
- 平成19年 千葉県議会議員当選
- 平成23年 千葉県議会議員再選
- 平成27年 千葉県議会議員3選

- 現 職 ■
- 千葉県議会 健康福祉常任委員会副委員長
- 日大習志野高校同窓会 会長
- 佐倉リトルシニア野球協会 会長

外来生物を駆除

カミツキガメの行動情報を収集

■平成29年2月県議会
伊藤議員 印旛沼流域に生息するカミツキガメの駆除についてうかがう。実態調査の結果を踏まえ、今年度の取り組み状況はどうか。

環境生活部長 実態調査では、個体数を減少させるために、最低でもメス1250頭以上の捕獲が必要とされました。これを踏まえ、今年度は、新たに生息が判明した河川や用水路にもワナを設置するとともに、ワナの引き上げ回数を増やしました。

その結果、昨年度の1.5倍の1411頭を捕獲しましたが、このうちメスは約700頭で、目標とする捕獲数には及びませんでした。

■平成22年12月県議会
伊藤議員 ナガエツルノゲイトウは、どのような影響を及ぼしているのか。また、県の対応はどうか。

県土整備部長 ナガエツルノゲイトウは繁殖力が旺盛な水生植物であり、沼や流入河川に繁茂することにより、河積阻害、船舶航行の妨げや水辺環境の悪化などの影響がみられます。特に、排水機場では、取水口周辺に漂着することで、ポンプの運転が困難になるなど、河川管理上、支障を来たしております。

ファーストフラッシュ汚濁対策

既設調整池改良や雨水浸透マス設置

■平成26年12月県議会
伊藤議員 道路、歩道などにたまった汚れが初期降雨時に雨水と一緒に側溝に流れ、河川から沼に入り水を汚してしまうファーストフラッシュ汚濁対策についてうかがう。

既設調整池の改良による対策ということで、佐倉市内4カ所でモニタリング調査を行った結果、窒素・リンの除去に効果があることが分かり、流域の市、町などに設置の由来をするという点だが、県及び流域市町の取り組み状況はどうか。

また、雨水調整池の改良は、佐倉市内の4カ所に加え、今年度、新たに船橋市において、改良を行うこととしており、引き続き、ファーストフラッシュ汚濁対策の推進に努めてまいります。

●県政や佐倉市のまちづくりに関する悩みごと、気軽にご相談下さい!!

伊藤まさひろ 県議事務所

〒285-0811 佐倉市表町3-6-28
TEL.043-485-8019
FAX.043-486-1616

流域の治水対策着々と

河川の整備進ちょくよく

土砂掘削や橋梁架替え

■平成26年12月県議会
伊藤議員 印旛沼に流入する河川は、上流部が台地で中下流部が低平地であるという地形的な要因から、洪水被害が生じやすい地域になっている。

印旛沼流域の中でも、浸水被害が心配されるのが、高崎川と鹿島川流域。この高崎川、鹿島川においても、一日も早い河川改修工事の完成を目指さなければならぬ。さらに、高崎川の河川改修の中で、樋之口橋の一日も早い架け替えが求められている。

鹿島川においては、土砂堆積の著しい高崎川との合流点の下流側で、約8千立方メートルの掘削を実施しており、また、高崎川では、樋之口橋の架け替えを行っているとのこと。

今後引き続き、河道掘削や護岸工事を進め、事業の進捗を図ってまいります。

■平成29年12月県議会
伊藤議員 鹿島川・高崎



県議会の自席から再質問する伊藤昌弘県議

川の河川改修の進捗状況と今後の見通しはどうか。

伊藤議員 樋之口橋の架け替え工事の進捗状況と今後の見通しはどうか。

伊藤議員 流域の県立高校への雨水貯留浸透施設の設置状況はどうか。

雨水貯留浸透施設

流域内の18校中9校に設置完了

設置状況はどうか。県土整備部長 県では、印旛沼流域において、流域対策として学校などの公共施設を活用した雨水貯留浸透施設の整備を進めており、河川改修と合わせた総合的

印旛沼流域かわまちづくり

■平成27年9月県議会
伊藤議員 印旛沼は全国湖沼水質ワーストワンであることから、あまり良いイメージは持たれていない。また、休憩できるポイントが少なく、水辺へのアクセスも悪いなど、印旛沼を生かし切れていない。そのような中、印旛沼流域の佐倉市、成田市、印西市、栄町、酒々井町の5市町では、印旛沼の利活用を推進するために本年3月に「印旛沼流域かわまちづくり計画」を作成したと聞いている。そこで

沼の魅力の情報発信

うかがうが、「印旛沼流域かわまちづくり計画」とはどのようなものなのか。県土整備部長 印旛沼流域の5市町では、印旛沼の総合的な利活用を推進し、沼への関心を高め、水質改善や地域防災力の向上などを図ることを目的とする「印旛沼流域かわまちづくり計画」を平成27年3月に策定したところ。また、ソフト対策としては、マラソン大会など、既存のイベントに加え、市町東部沼周辺を活用した新たなイベントを企画していくことで、沼の魅力の情報発信していくこととしております。県としても、沼を利活用する様々な取り組みを支援してまいります。

浄化槽の受検率向上へ

■平成26年12月県議会
伊藤議員 浄化槽の法定検査受検率向上にどのような取り組みをしているのか。

環境生活部長 平成25年の浄化槽の法定検査受検率は、使用開始直後の検査が61・8%であり、年1回の定期検査にあつては7・7%となっています。

県では、これまで、法定検査の申込を浄化槽設置に係る補助金支出の要件とす

るなど、受検率向上に努めてまいりました。また、本年12月から、関係団体が実施する浄化槽の機能保証制度について、見直しが行われたことから、当該制度と連携した受検促進を、新たに行うこととしました。

■平成29年12月県議会
伊藤議員 浄化槽の法定検査の未受検解消のため

県としてどのような取り組みをしているのか。環境生活部長 県では、浄化槽の使用開始時に行う浄化槽法第7条の規定による検査の未受検解消に向け、「千葉県浄化槽取扱指導要綱」の改正を行い、10月1日に施行しました。浄化槽の8割以上が建築確認を受けて設置されることから、今回の改正では、建築確認申請の際に法定検査手数料の納付書の写しの添付を求めることとしました。

■平成23年9月県議会
伊藤議員 印旛沼における放射能の状況はどうか。

放射能検査

環境生活部長 印旛沼の水を利用した水道水では、放射性ヨウ素は4月16日以降、放射性セシウムは3月28日以降検出されておりません。また、印旛沼の主要魚種であるカワエビ類など2種類の水産物の検査を行った結果、放射性ヨウ素は検出されておりません。放射性セシウムは暫定規制値を大きく下回っており、安全性が確認されている状況です。

伊藤議員 県民の飲料水の水源であり、農産物を育てる水であり、沼でとれた魚、ウナギなどを食べている。印旛沼の水の放射能検査実施について強く要望する。